

〔D類養護教育コース 対象〕

小論文 解答例

令和6年度 一般選抜前期 私費外国人 帰国生

I-問1

図1から男女の「やせ」と「肥満」の傾向を読み取り、その傾向の背景にある要因を考察して、300字以内（句読点等を含む）で具体的に述べよ。

（出題の意図）

国民健康・栄養調査（令和元年・2019年）の結果をもとに、15歳から49歳までの男女の「肥満」と「やせ」の棒グラフから傾向を読み取り、表現する力を問う問題である。

（採点のポイント）

以下のような男女の年齢別に肥満とやせの傾向が読み取れ、背景要因が記述されているか。

男女の差や、それぞれの性別における年齢の上昇に伴う傾向が読み取れること。全般に、女性の15歳から29歳ではやせが20%を越えて多いこと。それが年齢に従い緩やかに減少するが、対照的に肥満の割合が高まること。30歳以上で痩せと肥満の割合が入れ替わる傾向にあること。男性は、15歳から19歳では、痩せの割合が肥満より高いこと。特に20歳以上になると肥満の割合が急速に高まること。男女の比較でも、男性の肥満の割合が高いこと。

例えば、女性の場合の年齢層別の変化の背景要因には、痩せ願望、それによる食事の不規則さ、食事の偏りが考えられる。男性では、仕事の多忙さ、長時間労働による食事の不規則さ、外食によるカロリー過多の食事や健康的な食習慣への関心の乏しさ、身体運動の不足がある。性別、年齢層別を考慮して、合理的に理解できる背景が記述されていれば加点する。

食習慣、運動習慣、飲酒、睡眠不足、ストレスとその背景になることが指摘されていればよい。

I-問2

15歳から49歳の「やせ」と「肥満」の男女において、現在あるいは将来においてどのような健康問題の可能性が考えられるか、年齢・性を踏まえて、400字以内（句読点等を含む）で具体的に述べよ。

（出題の意図）

「肥満」と「やせ」によって起こりやすい健康問題について、適切な健康知識を持っているか、を問うねらいである。

（採点のポイント）

肥満とやせに関連した健康問題や病気等が記述されているか。

例えば、15歳から29歳女性では、痩せによる摂食障害や栄養不良に伴う貧血、骨粗しょう症、無月経、不妊、抵抗力の低下など身体的な影響、疲労感、注意散漫、食事への囚われなど精神的な影響など合理的に考えられる健康不調、疾病が述べられていればよい。

20歳から49歳の男性、30歳から49歳の女性では、肥満に関連した生活習慣病が具体的にあげられていること。たとえば、糖尿病、高血圧、痛風、大腸がん、歯周病、腰痛・膝痛、高脂血症など。

〔D類養護教育コース 対象〕

小論文 解答例

令和6年度
一般選抜前期
私費外国人
帰国生

II-問1

20歳から49歳男女の中で「改善することに関心がない」と「関心はあるが改善するつもりはない」と回答し、食習慣改善の意志を示さなかった2つの集団に対して、どのように働きかければ健康的な食習慣に改善しようという意志決定・行動選択が促せるだろうか。意志決定・行動選択に影響すると考えられる個人的な要因と社会的な要因を挙げ、それらの要因に対する働きかけと合わせて800字以内（句読点等を含む）で具体的に述べよ。

（出題の意図）

食習慣改善の意志が乏しい人達に、どのように働きかければ健康的な食習慣に向けた意志決定・行動選択を促せるか、その心理社会的な背景を推測し、変えるための働きかけを考える力を問うねらいである。高校の教科書で取り上げられている「健康に関する意志決定・行動選択と環境づくり」で学習する内容を応用することができるか、を問うている。

（採点のポイント）

個人的な要因は、栄養と健康に関する知識、食選択のスキル、食生活への意識・態度、食事に対する価値観や信念、仕事の忙しさ、家庭環境、内面化している規範意識、健康課題の重大さの認識、健康問題に対する無自覚、体重をコントロールしようという意志や意欲、改善しなくて済むような言い訳の多さ、食習慣改善に対する効果への不信などがあげられているか。

社会的な要因の例では、家族や友人など重要な他者の影響、職場環境・働き方、マスメディアやソーシャルメディアの影響、外食の頻度、社会的な付き合いによる飲食機会、周囲の人の肥満体型の多さなどがあげられているか。

さらに、個人的要因、社会的要因に対応して、どのように働きかけて行動選択を変えられるか、具体的で、合理的なアイデアが述べられているか。